

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	0292500022		
法人名	有限会社 楓プロジェクト		
事業所名	グループホーム かえでの森		
所在地	上北郡六戸町大字犬落瀬字柴山55-129		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来、園芸を行っており、利用者からの指導を受けながら取り組んでいる。自分達で収穫し、それを食べ、喜びや自信へとつなげている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ありがとう」「助かります」などの肯定が伝わる言葉かけを大切にし、日々の生活の中で信頼関係を築かれており、利用者はのびのびと過ごされている様子が伺えた。食事は手作りで家庭的な内容で、どれもが美味しく、気持ちが落ち着ける食卓である。馴染みの場所や人のかかわりを大切にし、これまでの生活と急に変わらないように配慮しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着サービスの意義を理解し、地域の中でその人らしく暮らせるよう、職員全員で取り組んでいる。</p>	<p>「個々の生活が保障され、心身共にその人らしく、最期まで普通の暮らしが出来るように援助する。また、認知症を理解して頂き、地域に密着した一人の人間としての交流の場を提供していく」を理念とし、笑顔、優しさ、思いやりを大切にしている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域で行っている行事への参加や、利用者それぞれの馴染みのところを利用し続けることで、交流を続けられるよう支援している。</p>	<p>散歩の際はこちらから近隣の方と挨拶を交わし、町内の祭りに参加したり、演芸ボランティアや保育園の子供たちとの交流を大切にする等、日常的に地域と交流を図っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域への発信は、まだまだ少ないが、まずはご家族にご理解いただきながら、一つずつ積み上げていきたい。</p>	/	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月ごとに実施。近況報告や取組み状況の説明をし、情報提供や意見をサービス向上に反映できるよう努めている。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、民生委員や家族、地域区長、役場の担当職員が参加し、率直な意見を得ている。活動報告や自己・外部評価を報告し、出された意見はホームのサービスに反映させている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の意見交換をしたり、相談時に指導やアドバイスはいただいている。</p>	<p>町にはホームのパンフレットや広報紙を配布している。役場担当職員が運営推進会議に参加しており、自己・外部評価について報告している。困難なケースは地域包括支援センターの助言を参考にし、解決に向けた取り組みを行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	職員全員が、認識している。身体拘束のないケアを実践しており、勉強会は定期的に行っている。	内部・外部研修を通して身体拘束の弊害について学習し、共通の理解を図り、身体拘束のないケアを実施している。マニュアルを整備し、やむを得ず拘束が必要な場合には、その理由、方法、期間、経過記録、家族の同意等について記録に残す仕組みを整えている。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	研修や管理者が地域での会議内容を職員に周知徹底することで、意識付けを図っている。			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	定期的な勉強会のほか、利用している方のフォロー態勢や状況報告を社協担当者と随時確認している。			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	重要事項説明書に基づき、口頭、文書で説明し、ご理解をいただいている。また不安、混乱のないように必要に応じて、関係各機関からの情報を提供している。			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見箱の設置や、運営推進会議後に話し合いの時間を設け、ご意見を伺うことのできる環境を作っている。それを職員のミーティングで議題とし、対応するようにしている。	面会時に来た家族の様子や日常的な利用者の表情から、不満や意見を聞き出すよう配慮している。面会の際は話しやすい雰囲気を心がけ、不満や意見を引き出せるようにしている。また、内外の苦情受付窓口を明示し、家族の意見・要望を事業運営に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回ミーティング、ケース会議を実施したり、カンファレンス時を利用しながら、意見交換できる場を設けている。	職員会議を開催し、各課題内容に担当者を決めて検討している。勉強会をしたりホームのあり方等を検討し、職員の意見が反映されるような取り組みを行っている。また、職員の異動を最小限にして、利用者に与える影響に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や食事会を利用した話し合いの場を設けることで、各自の取り組みを把握していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々のレベルに合わせた研修計画を立てている。研修後の伝達講習や機会教育を実施していくことでスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会には参加しやすい態勢を整えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の自宅への訪問や、体験入所(短時間)をしていただき、話を聴ける機会を設けており、入所されてからの関係作りにも好影響を与えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来ていただくこととお勧めし、生活場面を想定することで真のニーズやご希望を掘り起こしながら対応しているよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、見学の段階で居宅のケアマネジャーも含めた話し合いをし、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合い、教えられながら協働することでご家族のようにはなれないまでも、良い関係づくりができています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて状況報告をすることで、常に家族であることを意識していただけるようお手伝いしながら、共に支援する態勢づくりをしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの情報や、利用者の要望も聴きながら継続的に関係を保てるよう配慮している。	利用者の生活歴を把握し、馴染みの人や場所を大切にしている。家を見たいとの希望が多く、時間の許す限り連れて行っている。馴染みの美容院や知人の面会等を大切に、これまでの生活と急に変わらないように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに安心できる利用者同士のペアリングなど、良い関わりが出来るような働きかけを行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を希望される方へは、負担にならないよう配慮しながら連絡をしたり、支援に努めている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価		
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との向き合い、会話や行動の中から本当の思いを感じ取れるよう努めている。	入居の際、要望や今後どう過ごしたいのか、必要に応じて関係者や家族から情報収集し、利用者に意向を確認しながら支援している。理念の方針を忘れず利用者の視点に立って意向を把握するよう努め、言葉がけを多く行い、利用者の思いや希望を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながらご家族や地域との関わりを情報収集し、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気づきを大切にしながら、それぞれの生活リズムや個人を把握し、尊重したケアを行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族へのモニタリングやセンター方式でのアセスメントを参考に、随時カンファレンスを実施し、その時々々のケアプランに反映させている。	利用者や家族、関係機関から得た情報、日々の生活の様子を基に、全職員で話し合っている。センター方式でアセスメントし、介護計画が作成されている。毎月モニタリングし、計画に活かされている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの記録を整備している。また、申し送りノートを活用して情報共有し、ケアにつなげている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時は、ボランティア団体や保育園にも来訪していただき、交流を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医院と連携しながら、適時適切な受診体制がとられている。ご家族に同伴していただくこともあり、健康情報は共有できている。	ホームに入居する以前からの医療機関を把握し、家族や利用者の意向が、希望する医療機関に受診できるよう支援している。また、ホームに准看護師を配置し、体調変化時に対応している。受診結果は家族に報告し、情報を共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師や訪問看護師へは適宜情報伝達し、適切な指示を受けられる態勢を整えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室との密な連絡や早めの相談、調整等をしたりと、良い関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	単独グループホームということもあり、協力医院や環境整備の必要があり、当面は重度化や終末期への取り組みは行わないということで各家族にもご理解をいただいている。	重度化及び看取りに関する方針を明確にしている。経口摂取が困難になり、医療の必要性が高まると、その環境が整った施設に入院となる事を入居時の家族に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは作成されている。ミーティングや日々のケアでも定期的に確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練は行っているものの地震や水害を想定して行ったことはまだない。	2ヶ月毎に、日中・夜間を想定した避難誘導訓練を利用者も参加して行っている。運営推進会議で町内会や消防団の協力についても協議をしている。食糧や飲料水、寒さをしのげる物品などを用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮したケアを心がけているが、場合によっては、危険のリスク回避も優先していたこともあった。	入居以前に周囲からどんな呼び方をされていたのか把握し、利用者の意志を尊重した呼び方をしている。日々の生活の中で「ありがとう」「助かりました」など肯定した言葉かけを大切にしながら、信頼関係を築く努力をしている。職員は研修で、守秘義務に関して学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、職員一人ひとりがそれぞれの思いをくみ取れるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活なので、完全に一人ずつのペースに沿えるわけではないが、希望によって柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、理美容院へ外出したり、出張をお願いしている。		

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を企画したり、出来立てお弁当の配達をしてもらうことで、いつもと違う雰囲気味わいながら楽しみにつなげている。		利用者の好みや希望を取り入れ、管理者が献立を作成し、手作りの家庭的な食事内容となっている。皮むきや盛り付け、片付けなど利用者も一緒に行っている。食べようとしない利用者にスタッフはタイミングを見て、補助しながら食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部栄養士の指導のもと、バランスやカロリーに配慮した食事提供をしている。		/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でのケア困難な方へはイソジンガーゼの利用など、利用者個々に合わせた支援を行っている。		/	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズムの把握や記録をすることで、自立への支援を行っている。		排泄リズムを記録し、利用者毎のタイミングでトイレ誘導をしている。ケース会議でオムツ利用の見直しを検討し、利用者の希望に沿って布パンツを使用している方が多い。一人ひとりのプライバシーが保たれるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師との連携や、医師との相談、食事の工夫でそれぞれに無理のない対応をしている。		/	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤の効能を楽しんだり、職員とのおしゃべりを楽しむことで気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。しかし、それぞれの希望どおりの日時の入浴には対応できていない。		入浴は週2回をベースに利用者の希望や状態に応じて柔軟に対応している。入浴を拒否する場合は無理強いせず、声かけを工夫したりタイミングを見て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに休息が取りやすい環境整備を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病気と薬の内容を一目で把握できるシートを作成したり、必要に応じ看護師より指導してもらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などを活かし、役割作りにつなげている利用者もいるが、他の方もホームの中で活動の制限の心配をせず、ゆっくと過ごされている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調にあわせて敷地内散策、外出行事や買い物訓練を行っている。また、ご家族と温泉旅行に行かれた利用者もあり、ご家族への支援も行っている。	買物や散歩によく出かけている。夏祭りなど町内の季節の行事に参加している。家を見たいという希望にも柔軟に対応し、利用者の気分転換を図る配慮をしている。行事の内容によっては家族の参加を呼びかけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方は多くないが、買い物、受診、薬局への支払がスムーズにいくよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、電話使用できる環境にある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは南側に位置し、天井も高く明るく開放感がある。ホール窓も大きく取っており、四季の移り変わりも居ながらにして感じることができる。	ホールの大きな窓から陽光がたっぷりと入り明るい。窓からは田園風景や道路の車や人の行き来が見える。ホール内には畳の小上がりがあり、横になって休んだり自由に過ごす事が出来る。職員の声や物音、TV・音楽の音量は適切で、室内の明るさや換気の調節にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの上がり座敷を思い思いに利用し、それぞれに過ごされており、十分に活用されている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使いなれた家具や小物が持ち込まれており、それぞれが動きやすく、安心した居室づくりを心掛けている。	馴染みの物を持って来るように働きかけている。食器、布団、写真などが居室に置かれ、利用者の状態に合わせ、その人らしく過ごせるような居室づくりに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、共用スペースそれぞれに目印となるものがあり、混乱や不安がなく、自力で行動できるような工夫をしている。			